□には、リンクがあります。※は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム　あしたりの家　※

日付　平成18年1月18日

評価機関名 特定非営利活動法人 ライフサポート

評価調査員　在宅介護経験15年
評価調査員　在宅介護経験17年
評価調査員　在宅介護経験12年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る（改善状況のコメントがあります！）※

外部評価の結果

講評

全体を通して（特に良いと思われる点など）

開設して3年余り、ゆったりした空間が人の住んでいる家となった。利用者というよりこの家の住民で、それぞれに自分の似合う行動をし、好みの場所で時を過ごしている。2つのユニットでは、軽度の人のグループと重度の人が多いユニットに分かれられて、行き届いたケアが出来るようになっている。

「ホーム全体を車椅子で行き通い、会う人に手を上げて挨拶する人」「絵本や新聞を見ている人」「仲良し同士で楽しそうに話をしている人」「ホームの外に出てスケッチをしたり、部屋で絵手紙を書を書く人」「職員と一緒に新聞広告で箱作りをする人」等は日常の生活風景である。外では木工でポストが出来たり、素人離れした手作り作品がある。そして「チュウリップづくりを始めた。球根の植え方で葉の広がりが決まり、プランターへの植え方を実践している園芸の名人が現われた」来春の開花が楽しみである。昼食後、洗濯物が取り込まれると、男性が洗濯物を折れ目、縫い目に合わせてきちっとたたむ。「これは自分の仕事です」と。調理にもそれぞれ得意な分担がある。自分の培った技能をここで出し合って、このグループホームの生活を支えている多士済々の人の集団である。屋内と屋外が広々としたグループホームであるが、このような人達が有効に使いこなしていることを感じた。

地域の人も多くなり、知的障害者の厚生施設や授産施設も近くにあり、交流も積極的にされていることから地域と共に根付いていると実感がある。天気が良い日は近所を散歩し、途中これらの施設で休憩して帰りお互いに馴染み合っている。

管理者や職員は、利用者の気持を大切にしながら自然に寄り添ったり話し相手となって、それぞれの人のペースに合わせた支援をしているので、このグループホームの主人公は利用者であることを実感した。

特に改善の余地があると思われる点　　次のような提案をした

①職員が日頃利用者の接して感じ取った事項をノートに記入し、それに対し職員同志で自分の考えや、経験を書いて、色々な事が自然に職員間で共有できるような方法を考えると、日常のことが、このグループホームのサービスの質の向上につながると思う。

②認知症ケアは「これで良い」とか「こんなことをすれば良い」という終着点はなく、永遠の課題だと思う。管利者や職員が色々悩んでいる事や日々向上をしていこうとする気持ちを持っていることも察せられるが、地域のグループホーム同志や地域の関係者との交流をより深めていかれて、この地域のリーダーシップを発揮される事を望む。

③家族もよく来てくれているが、生活情報やグループホームの考え方を家族に情報提供して、利用者ー家族ーホーム従事者が一体感を持って利用者により幸せな生活を提供されるよう希望する。

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	

記述項目　グループホームとしてめざしているものは何か

利用者の生活に接すると、理念や運営計画・目標に掲げていることがそのまま実践されていることに結びついていると思う。一人ひとりの自分らしく生きる生活が実現できるよう職員の目指している姿を見せてもらった。

利用者の気持や希望を更に引き出してあげられるよう認知症ケアを研究していってもらいたいと希望する。

Ⅱ 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	

記述項目　入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か

「利用者がどこへでも行き来できる雰囲気作りがある」「2つのユニットを自由に行き来する」「自分の能力を発揮してグループホーム全体で楽しむ」「自分の好きなことが出来る時間と空間がある」「長期に亘って自分がした結果が皆を楽しませることが出来る」「住む人全員で楽しむ事も出来る」そいて「住民を支えている職員が、同じ住民になっている」このようなことが日々の生活で発揮出来る生活空間が、ここに実在していることが素晴らしい。

Ⅲケアサービス

番号		できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

Ⅲ ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	

記述項目　一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

利用者の精神的、身体的状態によって、一人ひとりの支援の仕方に工夫をしていて、利用者の生きがいを大切にしており、皆良い表情をして楽しんで生き生きと過ごしている事は素晴らしい。

「黙々と歩行リハビリに励む人」玄関のウッドデッキの階段を昇り降りしており、それを見守ってあげる男性利用者がいる。ほほえましい光景である。

日常、県北のグループホームと連繋して、研修したり、地元の医師や福祉関係者と連帯して高齢者福祉を研究している結果が、このグループホームの現在をつくり上げていると思う。一人ひとりのケアについて個別に考えて、一つ一つの症状について色々な人の意見を聞いたり取り入れたりしている姿勢も尊敬に値する。

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	

記述項目　サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。

代表者を始め管理者・職員は地域に開かれた良いホームを目指して連携のとれた運営をしている。事故があった時など全員で会議を開き、再発予防の対策を検討している。休憩時間に気楽な話し合いをし、悩みや問題解決の糸口としている。また、他のグループホームとの連繋をとり、ホームの問題や悩みの意見交換や研修を行っていたり、他地域での研修にも、職員が休みを返上して参加したりしている。これらのことはケアサービスや職員の質が向上するための確実な活動だと思う。ただ、職員の自由な意見交換の記録を残すことができれば、その経験を次に活かしてさらに良いケア行うことが出来るのではないかと思う。

家族との連携には努力が見られるが、情報提供として「たより」はもう少し発行する努力をして欲しい。アルバムは家族や利用者に整理してもらい、楽しんでもらうのも良いと思う。家族が来て話題にするのに役立ち、訪問のきっかけにもなるのではないでしょうか。

地域との交流は少しずつ進んできている。挨拶や地域に出かけるなど地道な活動を続け、又訪問を促す機会を作ることにより、理解を深めていって欲しい。そこから、ボランティアが来てくれるようになれば、ホームにとって大きな助けが得られ、さらに良いケアが出来ると思う。